



錦中通信

令和2年9月

守口市立錦中学校

校長 北村 圭代

9月14日生徒集会

10月を前にやっと朝と夕方が涼しくなり、35℃を超える猛暑の中勉強をしていたことを思うと、めっきり秋らしくなってきました。

集会では、1つ目に「うれしいニュース」についての話をしました。あいさつは、その日の気分を変えるくらい大切なものであり、「錦中生があいさつをよくするようになった」と地域の方からほめられたその日、私は一日明るい気分でごすことができました。

2つ目は右の写真のマークについて話をしました。これは「ヘルプマーク」といって外見からはわからなくても援助が必要な方が身に着けておられることがあります。このマークを見かけたら、電車内で席をゆずる、困っているようであれば声をかけるなど、思いやりのある行動ができればと話をしました。実際自分の身のまわりでも外見からはわからないけど、困ったり傷ついている人はいませんか。一人ひとりが「思いやりの心」をもって生活できればいいですね。



新型コロナウイルス感染症は一時期に比べれば感染者の数は減少傾向にはありますが、依然として感染拡大防止対策が大切です。引き続き「検温」「マスクの着用」「手洗い」の徹底をご指導いただきますようお願いいたします。

生徒会役員選挙（後期）

9月11日に役員選挙が行われ、後期の役員（会長はじめ8名）が決定しました。行事によっては前期・後期の委員長が協力してやっていくこともあるようです。後期は1,2年生のメンバーになりますが、3年生からのバトンを引き継ぎ「笑顔がいっぱいの錦中」を目指して活躍してくれることを期待しています。



錦小中学校夏季合同研修会

8月28日に錦小中学校の先生が集まって研修を行いました。追手門学院小学校の多賀一郎先生に来ていただき、9年間を見通した仲間や集団づくりについてお話をいただきました。コロナウイルス感染症対策の影響で先生同士の討議会はできませんでしたが、2学期以降の学校について考える良い研修会となりました。



新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見の防止に向けて、
文部科学大臣からのメッセージです。

保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができているのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多々と思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せず、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を 知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思っております。

令和二年八月 文部科学大臣 萩生田 光一